

大津 歴博 だより

2005
No.60

近江が生んだ実業家 広瀬宰平と伊庭貞剛の軌跡

—別子銅山から大津住友活機園まで—

10月1日(土)～11月13日(日)

別子銅山関係資料と住友家ゆかりの美術品のかずかず



日吉山王祭礼図屏風(部分) 海北友雪 江戸時代 泉屋博古館蔵
展示期間：10月1日～10月30日



大津市歴史博物館

企画展

近江が生んだ実業家

ひろせさいへい 伊庭貞剛の軌跡

別子銅山から大津住友活機園まで

江戸時代、豪商住友家の経営になる別子銅山(現愛媛県新居浜市)は、明治維新前後、閉山の危機に瀕していたが、それを見事に立て直した二人の人物がいた。一人は広瀬宰平、もう一人は伊庭貞剛。ともに近江の出身であった。

広瀬宰平は文政十一年(一八二八)、野洲郡八夫村(野洲市)の医者、北脇理三郎の次男として生まれた。そして約二十年後の弘化四年(一八四七)蒲生郡西宿村(近江八幡市西宿)の代官であった伊庭貞隆の長男として、貞剛が生まれる。ただし出生は母田鶴の実家、八夫村の北脇家であり、宰平と貞剛は叔父と甥の関係にあった。

現在、八夫には二人の誕生地を示す石碑が地元有志の手によって建立されており、一方、伊庭家が住んだ西宿では、貞剛を顕彰する会が、今も活動を続けている。この二人は、まさに郷土の偉人として、現在も語り継がれているのである。

特に伊庭貞剛は晩年、大津石山に住友活機園(重要文化財、写真左ページ)を建て、この地で八十歳の天寿を全うした。当時中之島図書館の建築な

どで知られる野口孫市が洋館を設計、住友家出入りの名匠八木甚兵衛が和館を手がけた。本展では内装の写真や貞剛翁愛用の木製椅子(リクライニング式)、和館の棟札、貞剛と親交のあった鹿子木孟郎の琵琶法師図などを出陳する。

他の展示作品としては、江戸時代、住友家が幕府要人などを招いたときに飾られた「日吉山王祭礼図屏風」(表紙写真)が、とりわけ祭りを知る人々にとっては必見の名品。次いで別子銅山での作業風景を、働く人々とともに描写した別子銅山図屏風、銅山や住友蒸気船などの図柄をあしらった薩摩焼記念杯、また「静さやもみち散しく苔の庭」の句とともに、宗匠帽を冠り裾からげをした後ろ姿の貞剛が、情趣深く描かれた俳画もある。

貞剛は明治政府の要人とも交際が多く、品川弥二郎の書簡は特に興味深い。貞剛は別子銅山を去るにあたり、銅山での過酷な体験を「五ヶ年の跡見返れば雪の山」と発句したのに対し、品川は「月と花とは人に譲りて」と付け句した。品川はすべての功績(月と花)を後身に譲って別子を去る貞剛の潔さを賞賛したのである。

その他、住友家ゆかりの美術品の数々や別子銅山関係の資料、懐かしいものとしては、製錬所があった瀬戸内海四阪島で、消防車として使用していたミゼット自動車なども展示する。



別子銅山図屏風(部分) 桂 墨癡 天保11年(1840) 住友史料館蔵



薩摩焼記念杯 帯山与兵衛 明治10年(1877) 新居浜市広瀬歴史記念館蔵
神戸支店(左)・住友蒸気船(中)・別子銅山(右)

●観覧料

一 般 六〇〇円(四八〇円)

高大生 五〇〇円(四〇〇円)

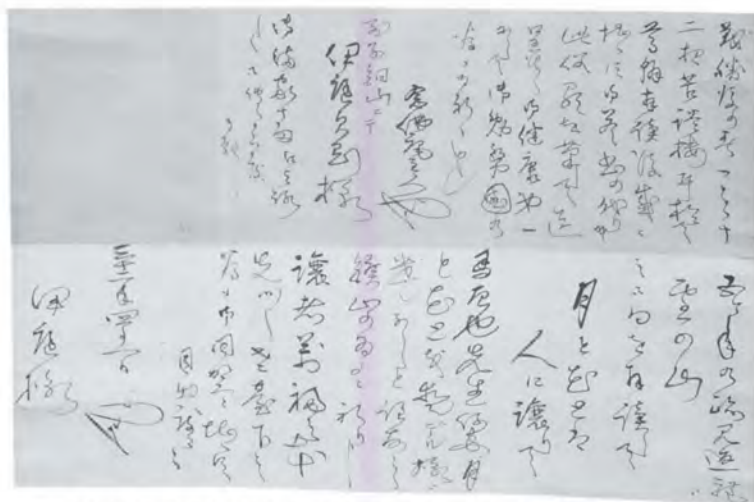
小中生 二〇〇円(一六〇円)

* (一)内は前売・団体(十五名以上)、市内在住の六十五歳以上の方・障害者の方の料金

●休館日 十月三・十一・十七・二十四・三十一日/十一月四・七日



伊庭貞剛(幽庵)俳画
「もみち散しく」
大正時代 沙沙貴神社蔵



品川弥二郎書状(部分) 明治32年(1899)他 別子銅山記念館蔵



住友活機園洋館 住友林業株式会社提供

おこぼまつり

下阪本の社と祭

■11月8日(火)～12月25日(日)

下阪本二丁目の酒井神社・両社神社では、毎年正月八日「おこぼまつり」と呼ばれる伝統行事が行われています。オダイモクと呼ばれる珍しいお供えが奉納される行事で、大津市の無形民俗文化財に指定されています。

酒井神社の場合、南北酒井町それぞれに当番が選ばれ、当番宅でオダイモク作りが行われます。餅を搗き、薄く延ばし広げ、それを籠の台に巻き付けます。また籠の上には笠餅と呼ぶ笠状の餅をかぶせ、全体を餅で覆います。そして、この餅に松竹梅の枝を刺し、餅の上に人形を飾ってオダイモクは完成します。これは床の間に安置され、夜、神職が参拝に訪れ、翌日の早朝、オダイモクは神社へ運ばれ拜殿に飾り、祭典が行われます。

両社神社でも、関係者によって社務所でオダイモク作りが行われ、翌朝、拜殿に供えられ、同様に祭典が行われます。こちらの場合、オダイモクの台は、樽が用いられています。

この行事は、滋賀県北部地域で濃厚に伝承され

ている年頭の正月行事「オコナイ」に関連するものと考えられてきました。ただ、江戸時代の年中行事記録を見ると、十二の餅と松竹梅を供える行事だったようで、現在の形になるまでには、変遷があったと考えられます。

このミニ企画展では、おこぼまつりの人形や関係資料を紹介します。

また下阪本地区は、日吉大社との関連で多くの社が祀られてきました。とくに唐崎神社は、日吉大社・西本宮の祭神大己貴神が、大神神社(奈良県)から影向されたとき、上陸した場所とされている聖地で、山王祭の船渡御の場面で、この伝説が今も再現されています。

このほか、ひっそりと祀られている小さな祠にも深い歴史があり、地域に根付いた伝統行事が伝えられてきました。そうしてこうした歴史を物語る文化財も伝えられています。

若宮神社に残されていた太鼓には、天正十五年(一五八七)の銘が刻まれています。祭礼の太鼓でこれほど古い太鼓が残されているのは珍しいことです。志津若宮神社の石造狛犬は、文禄三年(一五九四)銘が刻まれており、石造狛犬を考えるときの基準となる貴重なものです。

このように下阪本で祀られる各社の歴史や文化財についても紹介します。

主な展示予定作品

- ・おこぼまつり人形 江戸時代一式 酒井神社蔵
- ・おこぼまつり人形 江戸時代一式 両社神社蔵
- ・山王秘密社参 江戸時代一巻 日吉大社蔵
- ・両社神社年中行事 江戸時代一冊 両社神社蔵
- ・太鼓(天正十五年銘) 安土桃山時代

一点 若宮神社蔵



おこぼまつりで拜殿に供えられた、オダイモク(両社神社)

歴博の新収蔵品一挙紹介！

(平成十七年度分)

ともすれば、散逸しがちな地域の史料や文化財を積極的に収集・保存し、展示の場で、それらによって地域を物語らせる事は、博物館の重要な役目のひとつです。今回は、今年度の新収蔵品をまとめて紹介します。

大津絵 長刀弁慶 一幅 江戸時代中期 (購入)

大津絵のなかでも長刀弁慶は、鬼の念仏や藤娘と並んで人気画題であり、幕末の大津絵十種にも選ばれています。本作品は、同図様の作品が何点も確認されている江戸中期の二枚継ぎ物ですが、筆がよく走り、描写が優れた作品の一つといえます。なお、表具は民芸運動の影響を受けており、非常にお洒落な格子模様様の紙を中廻しに用いています。

狼図 紀樞亭 寛政四年(一七九二) 一幅

茂呂利根氏寄贈

「九老」の別号で知られる紀樞亭(一七三四〜一八一〇)は、与謝蕪村に師事して文人画と俳諧をよくしました。蕪村の俳画ばりの軽妙な人物画や、文人山水画を多く残していることから、「近江蕪村」と呼ばれました。狼を、つぶらな眼で人なつこさすら感じさせる姿に描いたところに彼の人柄がうかがわれます。

寿老図 長谷川玉純 一幅

茂呂利根氏寄贈

玉純(一八六三〜一九二二)は、玉峰(大津祭源氏山天井画の作者)の長男。大津榮泉寺書院を画房として活動する一方、大津尋常高等小学校や大津実科女

学校の図画教員を勤め、市内に多数の作品を残しました。本作は七福神の寿老人が眷属の鶴にもたれかかり、鶴が愛玩動物のような面白い作品。

月下帰樵図 柴田晩葉 一幅 茂呂利根氏寄贈

柴田晩葉(一八八五〜一九四二)は大津新町の生まれ。京都市立美術工芸学校、同絵画専門学校卒業後、山元春挙に師事。春挙塾の早苗会で活躍するとともに、文展・帝展でも入選を重ねました。大津では、渡辺公観と書画会を開催し、席上揮毫作品の頒布会は好評を博したと伝えられます。

京枀 茂呂家伝来 一点 江戸時代 茂呂利根氏寄贈

江戸時代、大津の商人であった茂呂家伝来の酒枀(一升枀)。枀の形態は江戸幕府公認の江戸時代初期の「京枀」で、由緒を記した箱書とも時代が符合し、大津町の商業を考察するうえで貴重な史料。

茂呂家文書 三四五点 江戸から昭和時代

茂呂利根氏寄贈

先の茂呂家に伝わった古文書群。同家は商人(煙草屋)でありながら、俳人も輩出しており、煙草屋仲間関係、居住地である小唐崎町の町政関係(町絵図を含む)、和歌・俳諧など教養に関するものなど多岐にわたっている古文書史料です。

長等山三井寺図版本 一点 明治時代

山村善一郎氏寄贈

三井寺(園城寺)の大門、金堂から観音堂までの一山が鳥瞰図風に彫られています。観音堂左手の高台に、明治十一年(一八七八)建立の西南戦争出征記念

碑が描かれていることから、版本の制作時期もそれ以降と考えられます。

源右大将上洛之図 歌川貞秀 一点

山村善一郎氏寄贈

貞秀は、幕末期に、パノラマ名所絵で一世を風靡した浮世絵師。本作品のタイトルは「源右大将上洛之図」となっており、源頼朝の上洛になぞらえられています。が、実際は、瀬田唐橋を渡る参勤交代の大名行列風景と近江八景を描いています。

御家流手鑑 一五件 江戸時代 山口善史氏寄贈

御家流は、青蓮院門跡尊円親王(一二九八〜一三五六)が創始した書法で、後に和様書道の主流となりました。本作品群は、山口善造氏(故人)の収集による御家流の手鑑(江戸時代の写本)です。

大織冠(複製) 付・藤原鎌足像 一点 昭和時代

山口善史氏寄贈

昭和九年に発掘された高槻市阿武山古墳から出土した遺物が、藤原鎌足の「大織冠」と推定されています。鎌足は中大兄皇子(天智天皇)の盟友であり、大津宮にも関係が深いことから、故山口善造氏が、困難な金モール糸の複製を含めて復元されました。

創耀技作品 四点 昭和時代 山口善史氏寄贈

創耀技とは、山口善造氏(故人)が創始した銀の科学変化を利用した芸術作品。創造・耀変・技道の三つの言葉から命名されました。今回、太平記・幻住庵記・明恵上人詞書・平家物語を題材とした作品を御寄贈いただきました。

図版 主な新収蔵品



月下帰樵図



寿老図



狼図



大津絵 長刀弁慶



御家流手鑑



源右大将上洛之図



大織冠



京樹伝来由緒書



京樹

大津歴博だより No.60
平成17年9月7日

大津市歴史博物館
〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎(077)521-2100
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>